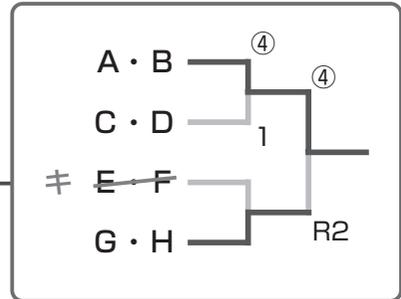


ハンドブック ワンポイント レッスン

知っておきたい規則とルール

Question

2級審判員資格を持っている者です。先日のブロック大会で、会場入り口に成績表（対戦結果）が掲示されていました。当日棄権したペア（E・F）と対戦中に足の痙攣を起し時間内に回復できず途中棄権となったペア（G・H）がありました。成績表を見ると表1のように、当日棄権ペア（E・F）は名前を赤線で抹消し頭にキと記載されていました。当日棄権ペアの記載の仕方は正しいのでしょうか。



Answer

大会申込をして当日棄権した場合の記載は（R）のみを記載し、途中棄権となった場合は、（R）と記載し有効スコアを記載する。

ご質問の通り、残念ながら正しい記載方法ではありません。

実は、2004年にソフトテニスハンドブックは現在の競技規則・審判規則・大会運営規則の分類に改訂されました。その中の大会運営規則の第15条（プログラム等への成績記載）および【解説29】に、当日棄権した場合の記載の仕方や事例が明記されていませんでした。審判委員会では当日棄権した場合の記載方法について質問を受け、欠落していることに気付き、2005年改訂時に当日棄権した場合の記載について追加するとともに、【解説29】の大会記録の記入方法に事例を挙げ、棄権と失格の取り扱いについて明確にしました。

2005年の改正以前は、棄権の記載方法は、今回

掲示されていたような書き方をしていたのが事実です。質問者は2級審判員資格を2005年度以降に取得され、ソフトテニスハンドブックに関心を持ち、前向きな姿勢で注目されておられ、当日棄権のペア（E・F）の成績記載に疑問を持たれたことに敬意を表します。正しい記載の仕方は表2となります。今回のブロック大会の記載は、記録担当の方が過去の習慣で記載されたものと推測されます。

大会においては、成績表に記載する記録担当の方には、ソフトテニスハンドブック【解説29】（大会記録の記入方法）を参照して正しい記載をしていただくように審判担当の方からも連携とご指導をお願いすると共に、研修会は必ず受講するようにし、改正や変更点に気を付けましょう。

【関連規則】

大会運営規則第15条（プログラム等への成績記載）、
【解説29】大会記録の記入方法
その他、競技規則第39条（棄権）、審判規則第18条（棄権）

E・F=当日棄権
G・H=途中棄権

